

<ちょこっとコラム②④>

(教会歴 その⑨)

「三位一体主日」 *Trinity Sunday*

聖霊降臨日の一週間後の日曜日は、三位一体主日と呼ばれます。クリスマスにイエス様が神の子としてお生まれになり、十字架にかけられて死んだ三日目に復活され、天に昇られた後に、主を信じる者たちに聖霊が降り、永遠のいのちを得る救いへと導かれました。この救いの御業が、「父と子と聖霊」なる三つであり一つである神によるものであることを覚える日です。

三位一体主日の起源は、8世紀半ばの典礼書に見ることができます。1334年に、教皇ヨハネ22世によって導入され、1570年のピオ5世の「ミサ典礼書」以降、教会に定着し、教会はこの救いの神秘の祝日を大切に伝えてきました。祭色は白を用います。